



第1章 なごや水の環(わ)復活プランとは

1 プランの趣旨

降った雨は、大地にしみこみ、草木を潤し、大気をすがすがしくし、生きるものを育て豊かにしてくれます。

この自然の水の流れに加えて、私たちは都市生活を支えていくために、水道などの便利で素早い水の経路をつくってきました。

自然の水の流れと人工の水の流れがバランスのとれた状態を"水の環"^{みずのわ}といいます。

この"水の環"が損なわれてきました。

かつて、川は水遊びや舟運など人の生活にも大きく関わっていましたが、埋め立てられたり、暗渠^{あんきょ}になったりして、その姿を消してしまいました。

都市化が進み、街がアスファルトやコンクリートに覆われ、雨が地下にしみこまなくなってしまうようになりました。そのため、湧水が減ったり、降った雨が地表を一気に流れやすくなって洪水の危険性が増したりしています。

また、川の汚れに不満を持つ人も多く、緑が減ったことで緑や水による冷却効果が下がり、ヒートアイランド現象などの問題が起こっています。

なごや水の環(わ)復活プランでは、人の活動と水循環の調和を考えながら、損なわれた水の環を復活することで、これらの問題を解決し、豊かな水の環(わ)がささえる「環境首都なごや」の実現をめざします。

用語解説

暗渠(あんきょ)：上部に覆いをした水路。

2 プランの位置付け

これまでは、河川、地下水、上下水道や緑について、関係部局がそれぞれの目的に沿って対策をすすめていました。「なごや水の環(わ)復活プラン」では、これらの対策を水循環の視点から捉えます。そして、水の環復活に向けた構想とします。

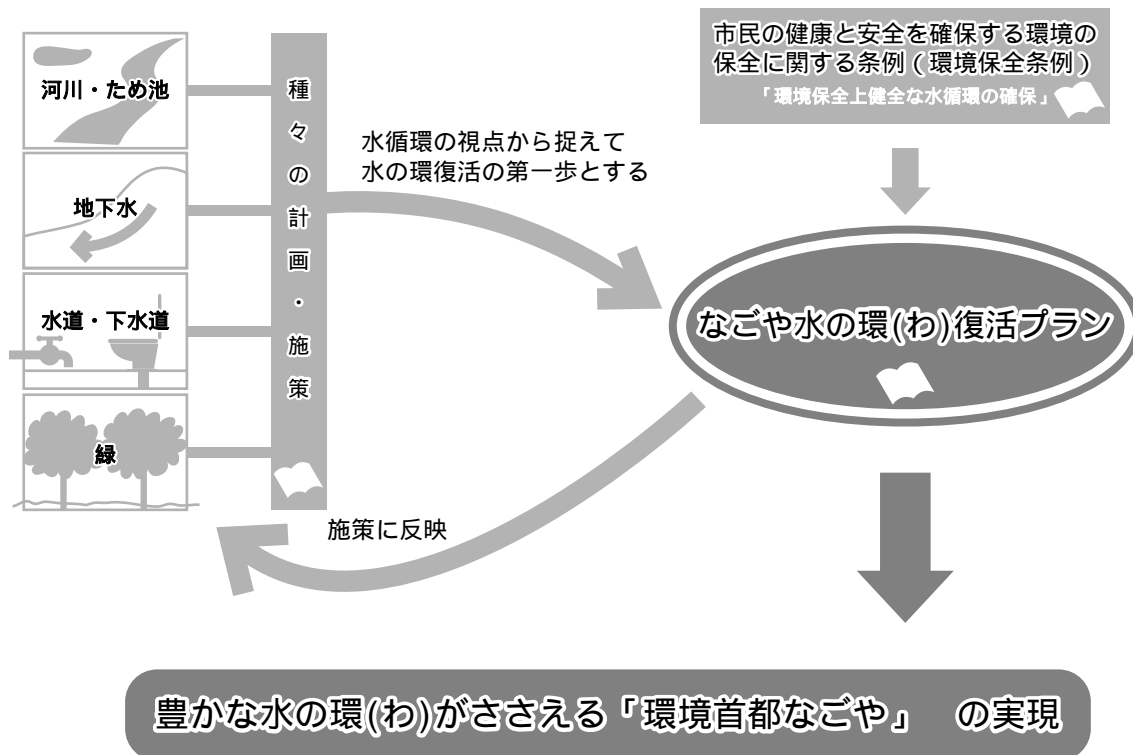


図 1-1 水の環(わ)復活プランの位置付け

3 対象地域

水循環は、基本的には流域単位で考えます。しかし、名古屋市では、雨水などの自然の流れのほか、市外を流れる木曽川に上水道の水源があったり、降った雨が下水道を経て河川に放流されたりするなど、人工の流れが複雑に絡み合っています。

本プランでは、対象地域を名古屋市全域とし、水の環の復活に取り組みます。

第1章

なごや
水の環(わ)
復活プラン
とは

第2章

名古屋
市域
の現況

第3章

なごやの
水循環の
課題

第4章

水の環(わ)
復活プラン
の理念と
めざす姿

第5章

水の環(わ)
復活に
向けた
取り組み

第6章

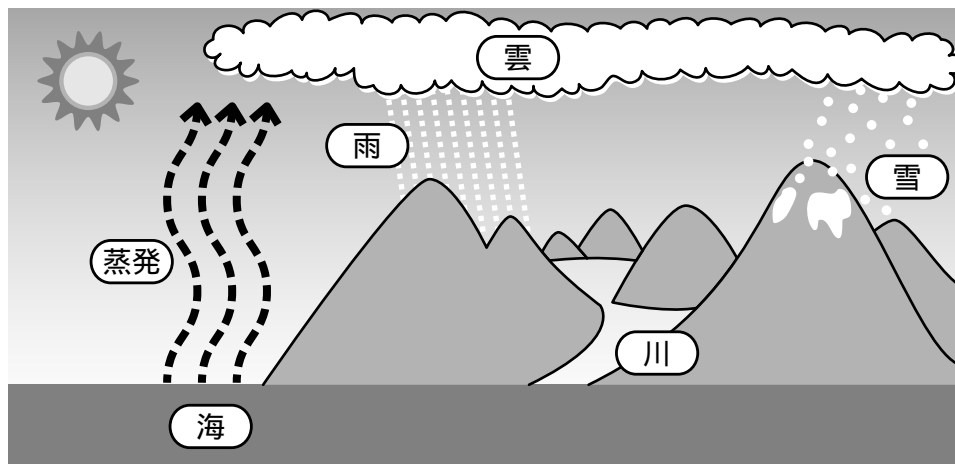
推進方策
・
フォロー
アップ

資料編

コラム : 水循環とは

海や地表の水は、太陽にあたためられ水蒸気となって雲をつくり、恵みの雨となって大地にしみこみ、泉から湧き出し、川となって海に帰ります。このように、水は、水蒸気、雨や雪、地下水、川の水といったように形を変え、姿を変えながら地表をめぐっています。これを水循環といいます。

しかし近年、都市への人口や産業の集中、市街地の拡大、産業構造の変化などにより水循環の健全性が損なわれ、平常時の河川流量の減少、湧水の涸^こ渴、さらには各種排水による水質汚濁や不浸透面積の拡大による都市型水害などといった問題が生じています。



そこで国では、関係する省庁が集まり、「健全な水循環系構築に関する関係省庁連絡会議」が行われたほか、平成12年12月に閣議決定された「新環境基本計画」では、「環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組」が、今後重点的に取り組むべき戦略的プログラムの一つとして位置付けられています。平成18年4月に策定された「第3次環境基本計画」においても、重点分野の一つとして位置付けられています。